

第1回まちづくりミーティングより

○概要：
 ・平成29年11月30日午後7時～9時30分(織田コミュニティセンター)
 ・参加者約50名

織田のまちを住民主体で考えていくための第1回まちづくりミーティングが行われました。前半は講演、後半は参加者全員での自由な意見交換が行われました。

○内容：

1：講演のポイント(講演：福井工業高等専門学校江本晃美氏)

☆景観は織田の風土を具現化している。景観の取り組みは10年、20年と時間のかかるものだがあくまでもまちづくりのうちの1つ。

☆生活を良くするために、住民みんなで話し合っ解決に向けて活動していくのがまちづくり。まずみんなが「織田のまち」についてフラットに話せる場が必要。

☆写真で見えるように普通の風景の中に、見せる(視点)場を見出し、価値を認識して、保全し活用することが大切。



2：意見交換のまとめ(住民、町関係者を含め50名程)

・ 劔神社周辺の舗装については、施工性、コスト、冬場の除雪等の観点を整理し、総合的に意見をまとめる必要がある。

・ 現存していない鳥居の価値を知り、復活やその重要性を広げてみてはどうか。

・ 織田信長像をもっとまちにとって有効に活用したい。

・ 来街者に織田の良さが伝わるようにして、1時間くらいは滞在できるようにしたい。

・ 住民が考えることが重要なので、講演にあったような小さな軒先の取り組みからでも始めてみて気持ちを醸成していかないと景観整備などもできない。



まちなみ視察より

○概要：
 ・平成29年12月10日午前8時～午後7時
 ・視察先：愛知県 豊川稲荷門前町、東海道二川宿
 ・参加者約21名

第1回まちづくりミーティングを受けて、住民主体での景観等のまちづくりの活動やまちづくり組織の様子などについて先行事例の視察が行われました。

○内容

1：豊川稲荷の門前町

・ 老朽化店舗を中心に、門前町に相応しい修景(景観の特徴に合わせて建築物やエクステリアを改修すること)を行っている(予算上限300万がポイント)。

・ 地区の景観を保全するために、住民と大学、市と一緒にゆるい修景ガイドラインをつくった(ゆるくて判断が難しいという一面も)。

・ 住民としては、「木曜会」という組織を立ち上げ、どんな街にしたいかを話し合ったことが、取り組みのきっかけ。

・ 年間を通じて「地元」の人たちに楽しんでもらえるように考えている。



修景された「いっぶく亭」前にて

2：東海道二川宿 二川宿まちづくり会

・ 文化財は市が保存、景観づくりは市、大学、住民で検討しながら保全、改修を進めた。

・ 地域のみなさんが誇りを持って心地良く住めるまちを目指しながら、宿場の街並みの雰囲気を守る、調和できるよう建築物のゆるい基準づくりを進めた。

・ 住民のまちづくり組織では最初30万円の活動補助を利用しながら進め、NPOを立ち上げて自分たちでカフェやイベントの開催などを考えていった。

・ 何事も継続は大変だが、住む人にやさしいまちづくりを大切にしてきた。



文化財指定され、改修してカフェ等に利用されている「東駒屋」にて

2月以降も月ごとに第3回、第4回のまちづくりミーティングを企画しています！みなさんと織田のまちについて話し合いましょう！